2 エズラ
聖徒伝 194

# マラナタ・主よ来てください

エズラ書2～3章　　**神殿再建の開始**

Shikaoichurch.com

# アウトライン

0. イントロダクション

Ⅰ. 帰還者たち・神殿再建へ　2章

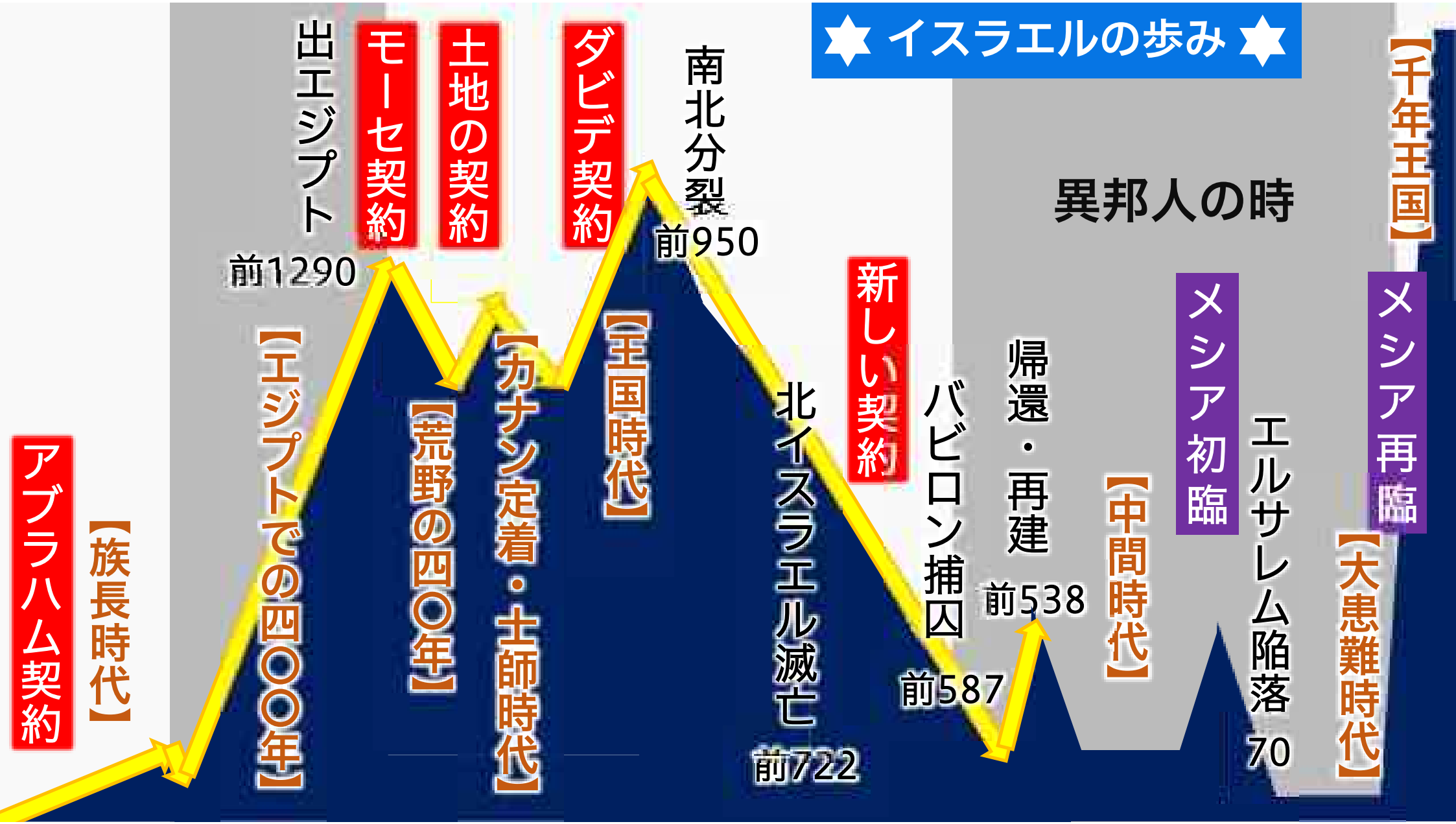
Ⅱ. 仮庵祭・神殿の定礎　3章

Ⅲ. まとめと適用

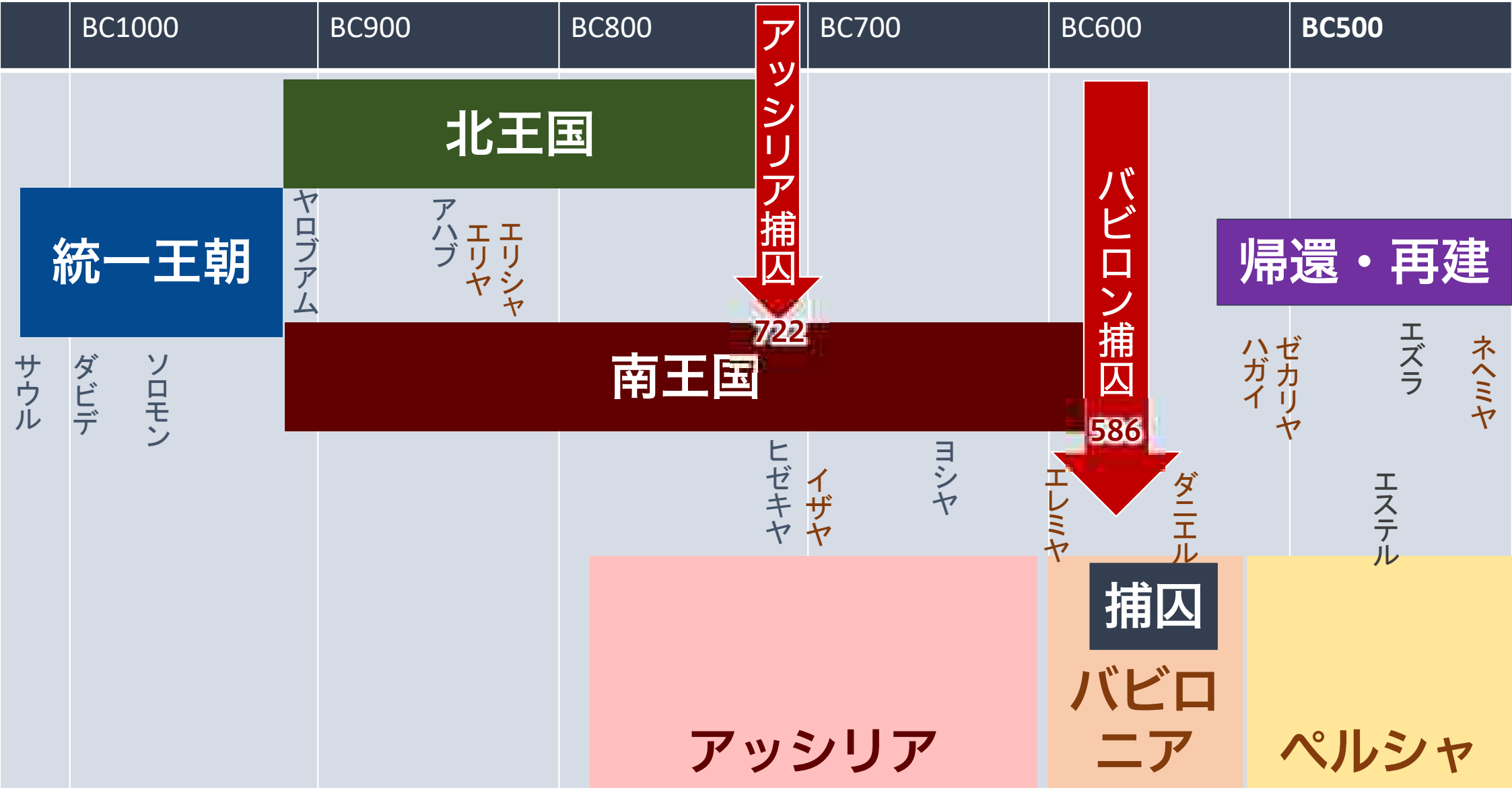
共におられ、

再び来られる主を待ち望もう

オリーブ山から臨む神殿の丘


イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

# イスラエル王国史


BC1000
BC900
BC800
BC700
BC600
BC500
北王国
統一王朝
ヤロブアム
アハブ
エリヤ
エリシャ
アッシリア捕囚
722
バビロン捕囚
586
帰還・再建
南王国
サウル
ダビデ
ソロモン
ヒゼキヤ
イザヤ
ヨシヤ
エレミヤ
ダニエル
ハガイ
ゼカリヤ
エズラ
ネヘミヤ
エステル
捕囚
アッシリア
バビロニア
ペルシャ

# バビロン捕囚の間のイスラエル

- バビロニアの政策は、被征服民の文化や宗教を一定程度、許容した。
  ➡ヤハウェへの信仰を保ち続けた。

- エルサレムの捕囚の民は、ティグリス川、ユーフラテス川の河畔に集団で生活した。
  ➡家を建て、働き、子を生み育てた。

- 有能な者を、バビロニアは積極的に任官。
  ➡ダニエル、3人の友人たちなど。

ユーフラテス川

ニネベ
バビロン
ルサレム
エジプト
アケメネス朝
ペルシャ

# エズラ記の構成

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1～6章 | **神殿の再建** | 1章 | キュロス王の布告 |
| | | 2章 | 帰還民の部族リスト・再建の開始 |
| | | 3章 | 神殿建設・礎の敷設 |
| | | 4章 | 妨害（15年間停止） |
| | | 5章 | 工事の再開 |
| | | 6章 | 神殿の完成・奉献 |
| 7～10章 | **信仰の再建** | 7章 | **エズラ**の帰還 |
| | | 8章 | レビ人と祭司の再編 |
| | | 9章 | 異邦人との雑婚問題 |
| | | 10章 | 悔い改めと聖別 |

# 年代表　捕囚後の時代

| 年代 | イスラエル | ペルシャ |
|---|---|---|
| 前538年 | 約5万人が帰還<br>**ゼルバベル** | バビロン陥落<br>**キュロス王**の布告 |
| 前520年 | **ハガイ**・**ゼカリヤ**の帰還 | **ダレイオス王**　第2年 |
| 前515年 | 神殿の完成 | |
| 前476年 | | **エステル**がペルシャの王妃に<br>**クセルクス王** |
| 前458年 | **エズラ**のエルサレム到着<br>律法の確認・霊的覚醒 | **アルタクセルクス1世** |
| 前444年 | **ネヘミヤ**が帰還・城壁再建 | |

ゼカリヤ書

エズラ記

# Ⅰ．　帰還者たち・神殿再建へ　　エズラ書2章

エルサレム近郊の山々

## 帰還民　帰還民リスト　エズラ2:1

バビロンの王ネブカドネツァルがバビロンに引いて行った捕囚の民で、その捕囚の身から解かれてエルサレムとユダに上り、それぞれ自分の町に帰ったこの州の人々は次のとおりである。

■捕囚民の中からの最初の帰還民のリスト

➡真っ先に帰還した信仰者たち!!

## 帰還民　指導者たち　エズラ2:2

彼らは、ゼルバベル*、ヨシュア*、ネヘミヤ*、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ*、ビルシャン、ミスパル、ビグワイ、レフム、バアナと一緒に帰って来た。イスラエルの民の人数は次のとおりである。

＊指導者　＊大祭司

＊ネヘミヤ記のネヘミヤとは別人（90年後）

＊エステル記のモルデカイとは別（60年後）

# 帰還民（第一次）の内訳

| | | |
|---|---|---|
| エルサレムの氏族 | 18氏族　15,604名 | |
| 近郊の町村出身者 | 21町村　8,540名 | ベツレヘム、ベテル、アイ… |
| 祭司 | 4部族　4,289名 | |
| レビ | 9部族　341名 | |
| しもべ | 45部族　392名 | |
| 未認証部族 | 3部族　652名 | |
| 未認証祭司 | 3部族 | |
| 奴隷・歌い手 | 奴隷　7,337名　歌い手　200名…捕囚先で奴隷に？ | |

**王族・貴族・祭司**
**指導者層がメイン**

## 帰還民　未認証祭司　エズラ2:62～63

これらの人々は自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったので、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。

そのため総督は彼らに、ウリムとトンミム*を使える祭司が起こるまでは、最も聖なるもの*を食べてはならないと命じた。

＊大祭司が所有。神託のための石（出28:30

＊ささげものの中の祭司の取り分

■特に重要視された祭司の系譜

## 帰還民　総数　エズラ2:64～67

全会衆の合計は四万二千三百六十人*であった。 このほかに、彼らの男女の奴隷が七千三百三十七人いた。また、彼らには男女の歌い手が二百人いた。

彼らの馬は七百三十六頭。らばは二百四十五頭。らくだは四百三十五頭。ろばは六千七百二十頭であった。

＊2～60節の合計は、29,818名

女性・子供含む？　北王国出身者含む？

## 帰還民　ささげ物　エズラ2:68～69

一族のかしらの中のある者たちは、エルサレムにある【主】の宮に着いたとき、神の宮を元の場所に建てるために、自分から進んでささげ物をした*。

彼らは自分たちの財力に応じて、工事資金として金六万一千ダリク*、銀五千ミナ、祭司の長服百着を献げた。

＊幕屋建設や第一神殿建設を彷彿と!!

＊金519kg、銀2,850kg

## 帰還民　総数　エズラ2:70

こうして、祭司、レビ人、民のある者たち、歌い手、門衛、宮のしもべたち、すなわち、全イスラエル*は自分の元の町々に住んだ。

＊捕囚民全体の1～2割だろうが…、

➡主の都に仕える構成員が揃った!!

エルサレム近郊の山々

## II.　仮庵祭・神殿の定礎　　エズラ書3章

エルサレム近郊の山々

## 仮庵祭　秋の祭り　エズラ3:1

イスラエルの子らは自分たちの町々にいたが、第七の月*が来たとき、民は一斉に*エルサレムに集まって来た。

＊秋の祭りの始まる月(9月頃)

1日・ラッパの祭り　10日・贖罪日

15～21日・仮庵の祭り

＊“一人の人のように(口語・新共)”

■主が律法に定めた祭りを祝う

➡捕囚の民が待ち焦がれていたこと!!

**仮庵祭**　**秋の祭り**　エズラ3:2

そこで、エホツァダクの子ヨシュアとその兄弟の祭司たち*、またシェアルティエルの子ゼルバベルとその兄弟たち*は、神の人モーセの律法に書かれているとおりに全焼のささげ物を献げるため、イスラエルの神の祭壇*を築いた。

＊大祭司と祭司、宗教的リーダーたち

＊総督ゼルバベル他、政治的リーダー

➡ダビデの家系（マタイ1:12）

＊律法が定める通りの祭壇（出20:25）

## 仮庵祭　ささげ物　エズラ3:3～4

彼らは、周りの国々の民を恐れていたので*、祭壇を所定の場所に設けた。彼らはその上で【主】に全焼のささげ物、すなわち、朝ごとタごとの全焼のささげ物を献げた。

彼らは、書かれているとおりに仮庵の祭りを祝い、毎日の分として定められた数にしたがって、日々の全焼のささげ物を献げた。

＊“恐れながら(新共)”

■周辺の民の妨害や攻撃を恐れながらも、律法の通りささげ物を献げた(レビ23:32)

## 仮庵祭　様々なささげ物　エズラ3:5

それから、常供の全焼のささげ物、新月の祭りやすべての聖別された【主】の例祭のためのささげ物、そして一人ひとりが進んで献げるものを、喜んで【主】に献げた。

■律法が定めた、様々なささげ物を
　すべての民が喜んで献げた。

## 建設準備　資材の調達　エズラ3:6～7

彼らは第七の月の一日から全焼のささげ物を【主】に献げ始めたが、【主】の神殿の礎はまだ据えられていなかった。

彼らは石切り工や大工には金を与え、シドンとツロの人々には食べ物や飲み物や油を与えた。それはペルシアの王キュロスが与えた許可によって、レバノンから海路、ヤッファに杉材を運んでもらうためであった。

■レバノン杉の産地の港、シドン、ツロ*。

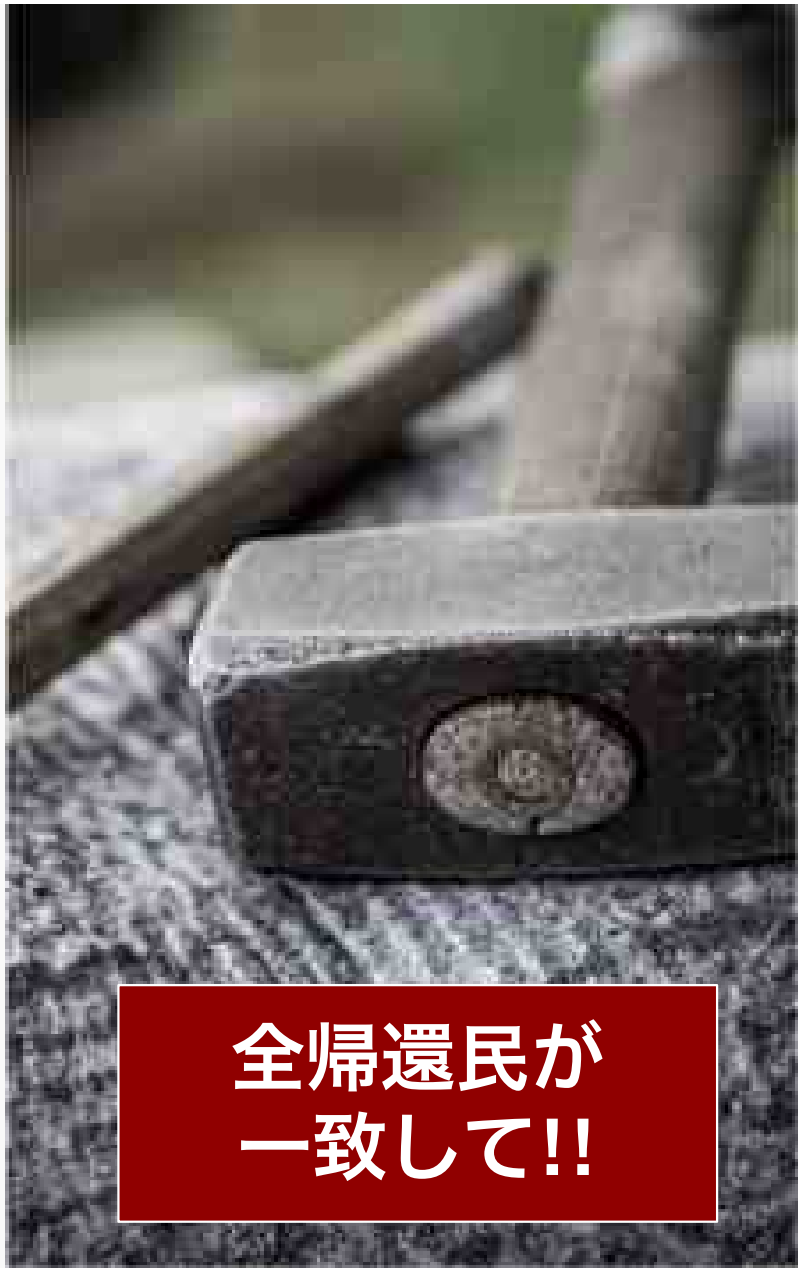
第一神殿建設の時も杉材を輸入。

## 定礎　工事の開始　エズラ3:8

彼らがエルサレムにある神の宮のところに着いて二年目の第二の月*に、シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子ヨシュアと、そのほかの同僚の祭司とレビ人たち、および捕囚からエルサレムに帰って来たすべての人々は、【主】の宮の工事を指揮するために二十歳以上のレビ人*を立てて、工事を始めた。

＊5月頃…祭壇を築いてから7ヶ月後。

＊神殿の奉仕者・レビ人が工事の指揮に!!



## 定礎　指揮　エズラ3:9

こうして、ヨシュアと、その息子たち、その兄弟たち、カデミエルとその息子たち、ユダの息子たちは一致して立ち、神の宮の工事に当たる者たちを指揮した。ヘナダデの息子たちと孫たち、そのレビ人の兄弟たちもそうした。

■工事の指揮をする者たちが

神殿奉仕者のレビ人から立てられた。

➡人の配剤も神の御心に従って!!

## 定礎　奏楽隊　エズラ3:10

建築する者たちが【主】の神殿の礎を据えたとき、イスラエルの王ダビデの規定によって*【主】を賛美するために、祭服を着た祭司たちはラッパを持ち、アサフの子ら*のレビ人たちはシンバルを持って出て来た。

＊契約の箱を携え昇った時（Ｉ歴16:5～6）

＊ダビデの奏楽隊長の子孫

## 定礎　民による賛美　エズラ3:11

そして彼らは【主】を賛美し、感謝しながら「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに*」と歌い交わした。こうして、【主】の宮の礎が据えられたので、民はみな【主】を賛美して大声で叫んだ。

＊ダビデの歌（Ｉ歴16:34、詩篇105:1）

➡契約の箱を携え上った時に歌われた

➡ソロモンの神殿奉献の時には、

賛歌後、主の栄光が臨在（II歴5:13）

## 定礎　老人たちの泣き声　エズラ3:12

しかし、祭司、レビ人、一族のかしらたちのうち、以前の宮を見たことのある多くの老人たちは、目の前でこの宮の基が据えられたとき、大声をあげて泣いた*。一方、ほかの多くの人々は喜びにあふれて声を張り上げた。

＊バビロン捕囚（約50年前）の経験者たち

➡第一神殿とは比較にならない粗末さ

基礎の段階で、その差は明確

**➡何より、主の栄光の臨在がない!!**

**定礎**　**喜びと嘆き**　エズラ3:13

そのため、喜びの叫び声と民の泣き声を　だれも区別できなかった。
民が大声をあげて叫んだので、その声は遠いところまで聞こえた。

## III.　まとめと適用　共におられ　再び来られる主を待ち望もう

エルサレム近郊の山々

# 喜びと嘆きが入り混ざる中で

- 解放後、真っ先に帰還を果たした、イスラエルの信仰者たち。
- 待望していた主の祭りをエルサレムでささげ、神殿再建に着手。
- 民は喜び、こぞって献げ物をし、再建のために建材を入手した。
- 定礎式。若い者たちが喜び叫ぶ中、老人たちは泣き叫んだ。
  ➡かつての第一神殿とは比較にもならない貧相さ
- 回復を喜びつつ、失われたものの大きさに打ちひしがれた。

# 捕囚からの帰還が示すこと

- 幾多の預言が示すのは、捕囚からの解放後、**再び来る苦難。**
  - ➡バビロニア、ペルシャ、ギリシャ、ローマ…、帝国に蹂躙

- 捕囚からの解放、第二神殿の建設…、
  - ➡長い長いイスラエルの**苦難の始まり**を告げることでもある

- 神の栄光が再び都に臨在するのは、**メシアの再臨**の時

- 苦難を通して促されるのは、メシアを待望する祈り
  - ➡究極的に高まるのが、イスラエルの裁き・**大患難時代**

# 神殿奉献の賛美

「そして彼らは【主】を賛美し、感謝しながら「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに*」と歌い交わした」

エズラ3:11

- ダビデが契約の箱を携え上った時に歌われた（Ⅰ歴16:34、詩105:1）
  ソロモンの神殿奉献のときにも（Ⅱ歴5:13）
  ➡神殿は、神の臨在で満たされた

- 神殿の礎を築き、賛美したが、主の栄光は臨在されなかった。

# エレミヤが預言していた、神殿奉献の賛美の時

■エレミヤ33:11、15～16

楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、【主】の宮に感謝のいけにえを携えて来る人たちの声が、再び聞かれるようになる。彼らは言う。『万軍の【主】に感謝せよ。【主】はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで』と。わたしがこの地を回復させ、以前のようにするからだ――【主】は言われる。」

…その日、その時、わたしはダビデのために**義の若枝**を芽生えさせる。彼はこの地に公正と義を行う。

その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの都は『【主】は私たちの義』と名づけられる。」

# イスラエルが待望すべきこと

- エレミヤの預言は、捕囚の民にも伝えられた。
  神殿再建と、メシアの来臨の預言を民は聞かされていただろう。

- 神殿再建に、民は、イスラエルの完全な回復を願っただろうが、
  まだ、その時ではないと思い知らされたに違いない。

- 嘆きに満ちた涙の叫びは、やがて、**メシア**の来臨を待ち望む思いに
  変えられて行ったことだろう。

- 幾多の苦難を経、紆余曲折しながらも、**メシア**を待望する祈りは、
  イスラエルの残された信仰者に継がれていった。

# メシアの初臨

- そしてメシアは来られた、受肉された子なる神・イエスとして。

- しかし、イスラエルはメシアを拒んだ。
  メシアは、十字架で死なれ、葬られ、復活された。

- 聖霊を受けた弟子たちは、イスラエルに悔い改めを迫り、
  ナザレのイエスこそ、メシアと信じ、
  なお、再臨のメシアを待ち望むように訴えた。

# 新約聖書におけるメシア待望の祈り

■ Ｉコリント16:22～23（新共同訳）

主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい。

マラナ・タ（主よ、来てください）。

主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。

■黙示録22:20～21

これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。

主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。

# マラナタの語源

- “マラナ・タ(marana・ta)”　＝“主よ、来たりませ”
  “マラン・アタ(maran・ata)”＝“主は今ここにおられる”

- アラム語…中東の公用語。バビロニア、ペルシャの公用語にも。
  （※エズラ記4:6～6:8は、アラム語で記載）

- “マラナタ”が、いつからユダヤ人に用いられていたかは不明
  ➡捕囚時代から用いられていた可能性も考えられる
  ➡アラム語圏の教会が採用した？！
  パウロは、ダマスコでの回心後、アラビアで3年伝道した。

## ★　主を呼び求めよう　★

■みすぼらしさと主の臨在のないことに泣き叫んだイスラエルの民。
しかし、嘆きはやがて、メシアを待望する祈りに代えられただろう。

■メシアなる主イエスは、私の罪のため、
十字架で贖いの御業を成し遂げられ、復活されて天に上られた。
栄光の姿で戻られ、神の王国を建てられる。

■マラナタの二つの意味を心に刻み、祈りをささげよう。
今、大祭司として私の祈りをとりなし、共におられる主イエスが、
栄光の王として再び来られるように。

**マラン・アタ　主はここにいます　マラナタ　主よ来てください**

「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主イエスは、今、ここに、私と共にいてくださいます。

大祭司として、私の祈りを父なる神にとりなしてくださっています。

主イエスが、栄光の王として再び来られる時を待ち望みます。

闇に呑み込まれて行く、世と世界を救ってください。マラナタ。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」